

1 日本の連休中の為替介入？

日本がGW中の4月29日、ドル/円は一時160円台前半まで急騰。その後、突如下落しはじめ、154円台まで急落、その間およそ3時間あまりの出来事だった。5月2日にも同様の急落が発生。いずれも、ヘッドライン等がない中での動きだったことや、先日の関係者報道を受けて、市場では為替介入が実施されたのではないかとみられている。（韓国との協調介入ではなかった模様）

【直近2回の為替介入と思しき値動き】


2 2022年との比較

2022年においては、3回の為替介入実施後、しばらくはドル/円はもみあって推移した。その後、円高トレンド入りしたのは、米国のCPIの結果が市場予想を下回ったことを受けたドルの急落、いわゆる「CPIショック」が最たる要因だった。（右図参照）

ドル/円が円高トレンドに転換するためには、日本の為替介入だけでは不十分で、米国側のドル安の要因が必要であると考えられる。

【ドル/円と2022年為替介入】

2022年は為替介入後の「CPIショック」で円高トレンドへ



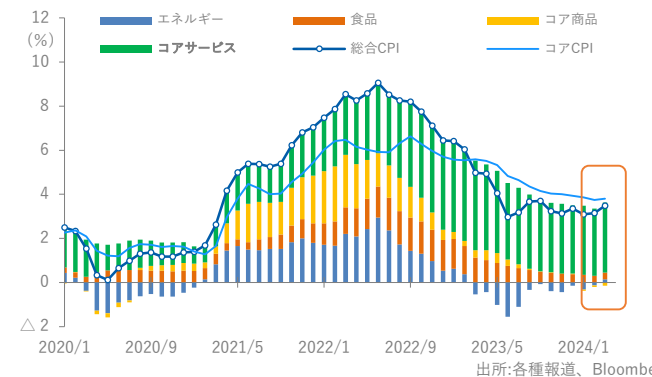
3 カギを握るのは5/15の米国CPI

今回の米国側のドル安要因となり得る材料は何か。雇用統計・ISM非製造業は弱い結果となったものの、ドル/円は足元底堅く推移している。

やはりカギを握るのは5/15発表のCPIであろう。（右図参照）CPIが市場予想を大きく下回る結果となった場合、インフレ鎮静化への期待から早期利下げ観測が復活し、ドル/円のトレンドが転換、2022年の「CPIショック」が再来すると予想する。予想を小幅に下回る程度の結果では、FRBは「単月のデータだけでは判断できない」とのスタンスを維持すると想定され、円高での反応は一時的に留まる可能性がある。

【米国CPI（前年比）の推移】

今年に入りサービスインフレを中心に足踏みの状態が続く



出所:各種報道、Bloomberg

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否にかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることがあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願いいたします。